



# 『東北圏だより』

## 新室長就任にあたって

東北圏広域地方計画推進室長 渥美 雅裕

（東北地方整備局 副局長）



10月1日付で東北圏広域地方計画推進室長を拝命しました渥美です。よろしくお願ひ申し上げます。

皆様もご存じのとおり、東北圏広域地方計画は東北地方の国土形成の基本方針や目標、戦略的に実施すべき具体的な施策等を明確にするものであり、平成21年8月に策定されました。その後、平成23年3月の東日本大震災で明らかとなった諸課題に対応するため、計画の見直し作業を進めて参りましたが、国土強靱化など国土計画を巡る状況の変化を考慮し作業を一時中断しておりました。

そのような中、今年7月の「国土のグランドデザイン2050」の策定や国土形成計画策定後の変化を踏まえ、国土審議会において国土形成計画（全国計画）の改定に向けた審議が開始されたことから、東北圏においても広域地方計画の見直し作業を再開することといたしました。

見直しにあたっては、東日本大震災の教訓を活かし、また政府の「まち・ひと・しごと創生本部」の取組動向等を踏まえつつ、東北圏におけるコンパクト+ネットワークの方向性をしっかり示していきたいと考えております。

今後、有識者等の皆様のご意見をお聞し、その上で各構成機関の皆様と共に検討していきたいと考えておりますので、関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指す取り組み

### 福島県

福島県は、再生可能エネルギーの導入推進を加速させるため、2011年3月に「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を策定しました。

しかし、東日本大震災により再生可能エネルギーを取り巻く情勢が大きく変化したこと、また、「福島県復興計画」の主要施策の一つに「再生可能エネルギーの飛躍的な推進による新たな社会づくり」を位置付けたことから、推進ビジョンの見直しを行い、平成24年3月に改訂しました。

推進ビジョンで掲げた「2040年頃を目途に県内エネルギー需要の100%に相当する再生可能エネルギーを生み出す」という目標への歩みを着実に進めるとともに、関連産業の集積に向けた取組を加速することにより、福島県を名実ともに「再生可能エネルギー先駆けの地」とするため、様々な取り組みを実施しています。

その一つが、「福島空港メガソーラー事業」です。

福島県の再生可能エネルギー事業推進の拠点となる施設として、福島空港敷地内に太陽光発電所を建設し、平成26年4月14日に竣工式を行いました。

発電所は、北発電所（500キロワット）、太陽追尾型パネルと30種のパネルからなるソーラーパーク（約200キロワット）、南発電所（500キロワット）で構成されています。約1,200キロワットの設備で一般家庭330世帯分の電力を発電し、その結果、二酸化炭素700トン削減できる見込みです。

この事業の実施に当たり、発電所建設資金のうち1億円を「県民参加型ファンド」で調達しました。県民参加型ファンドの活用により、再生可能エネルギー事業に県民自らが参画する地域主導の仕組みを構築しました。

【→次頁へ続く】



福島空港メガソーラーは、福島空港北駐車場の見学台から自由に見学していただけるほか、毎週水曜日には発電所内ソーラーパークの見学会を開催しております。

福島県は、再生可能エネルギー事業で復興を牽引していきけるよう、引き続き「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指す取り組みを進めてまいります。

## 第8回東北発コンパクトシティ推進研究会を開催

東北地方整備局

東北圏の地方都市におけるコンパクトシティの考え方や、その実現に向けた取組手法について検討する「東北発コンパクトシティ推進研究会」（主催：東北地方整備局、後援：日本都市計画学会東北支部）を、平成26年10月24日に、宮城県仙台市で開催しました。

本研究会は、各都市がコンパクトで持続可能な都市づくりを推進するため開催しているもので、当研究会で検討している「東北発コンパクトシティ」は、広域連携プロジェクトのうち「都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト」の主要施策として位置付けられています。

人口急減・超高齢化という地方が直面する大きな課題に対し、今年度、政府では「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、必要な施策を講じることとしています。その中でも地方におけるコンパクトシティの取り組みは注目されていることから、第8回目となる今回は、研究会会員（自治体）だけでなく一般からの聴講も募り、一般企業や学生など約180名の方々の参加を得て開催しました。

研究会の基本理念に立ち返る事から、福島大学名誉教授鈴木浩氏より、「コンパクトシティへの道 ～課題と展望～」と題して基調講演を頂きました。また、先進的な取り組み、まさに推進中の取り組みとして北上市長および石巻市長より事例紹介をして頂きました。

その後、国の方針、施策などの情報提供を踏まえ、弘前大学大学院教授北原啓司氏を座長にコンパクトシティ推進の問題・課題」について、座談会を行いました。

終わりに次回開催地、山形県鶴岡市の担当者より、これからの取り組み姿勢、来期の開催について力強いお言葉を頂きました。

研究会の詳細については、こちらをご覧ください。

→ <http://www.thr.mlit.go.jp/compact-city/>



▲鈴木名誉教授基調講演



▲座談会

## ポケモンとタイアップ！（復興商店街でつなぐ旅スタンプラリー）

東北運輸局

太平洋沿岸エリアと東北一円の周遊促進を図るために、観光庁、NEXCO 東日本、東北道の駅連絡会、東北観光推進機構、東北楽天ゴールデンイーグルスと連携し「復興商店街でつなぐ旅スタンプラリー」企画を平成26年7月12日から実施しておりますが、11月1日より「ポケモンウイズユー」（ポケモンの行う東日本大震災で被災した子供たちにむけた支援活動）とタイアップし、スタンプポイントを追加しました。

ガイドブック内のスタンプラリー台紙かスマートフォンでアプリ『旅ぷら』をダウンロードの上、復興商店街のスタンプを1個、ポケモンセンタートウホクのスタンプ1個を押印してご応募いただくと抽選でポケモンセンターオリジナルぬいぐるみが当たります。また、豪華景品がスタンプ数に応じて当たるスタンプラリーも継続しておりますので、お子様とご一緒にぜひご活用ください。



詳細は「東北物語ポータルサイト」

→ <http://tohoku-monogatari.org/p/content0172.html>

## 編集後記

11月に入り、今年も残すところ2ヶ月を切りました。朝晩の冷え込みも一段と厳しさを増し、これまで以上に体調管理に気を付けなければならない季節となりました。各構成機関の皆様におかれましても、風邪など引かずに年末を迎えられますよう、ご自愛下さい。

推進室一同、新たな室長の下、広域地方計画の見直しに向け取り組んで参りますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp